

複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

2) 底びき網漁業改善調査・刺網漁業改善調査（太平洋海域）

（抄録）

蛸名 政仁

I. 底曳網漁業改善調査

目 的

底びき網漁業は、目的の魚と同時に混獲される有用魚種の稚魚や未利用魚種を投棄している実態があり、資源管理上、多くの問題点が認められている。

これらの問題点を解決する対策の一つとして、産卵親魚や稚魚、未利用魚種を保護するための区域や期間の設定が考えられる。このため、小型底びき網漁業の操業実態及び漁獲物の構成を時期別、海区別に調査し、必要な基礎資料を得ることを目的とする。

結 果

1) 操業回数分布

2002年の操業は、時期により操業海区が異なり1月から2月、9月から12月は泊沖以南の海区で比較的操業が多く行われた。3月から6月は尻屋から階上にかけての広い海域で操業が行われていた。月別操業回数は、3月が1,019回で最も少なく、10月が1,561回で最も多かった。月平均操業回数は、1,292回であった。

2) 主要魚種の CPUE 漁獲量分布

2-1) マダラ

9月から12月に漁獲量が多く、1月から6月は少なかった。CPUEの高い水深は200m以深で、特に泊から八戸沖の水深300mから400mの海区で高かった。

2-2) スケトウダラ

1月から5月に漁獲量が少なく、6月以降増加し、9月にピークとなり10月以降減少傾向となった。CPUEの高い水深は水深180mから380mで、高い海区は、小川原沖から八戸沖の海域であった。

2-3) ヒラメ

9月から12月に漁獲量が多く、それ以外の月では比較的少なかった。CPUEの高い水深は200m以浅で、小川原以南の海区が高かった。

2-4) マコガレイ

年間を通じて漁獲量が多い月でも2トン程度である。CPUEの高い水深は180m以浅と280m付近に認められることから、時期によって深浅移動していることが窺われる。2002年の12月には、八戸沖合いの海区で高いCPUEが認められた。

Ⅱ．刺網漁業改善調査

目 的

刺網漁具による漁獲実態から異体類の季節的な分布生態を把握するとともに、刺網操業改善のための隻数基礎資料を得る。

方 法

標本船 8 隻（八戸市南浜漁協 1 隻、はちのへ漁協 1 隻、三沢市漁協 1 隻、泊漁協 1 隻、横浜町漁協 1 隻、野辺地町漁協 1 隻、平内町漁協小湊支所 1 隻、平館村漁協 1 隻）を設定し、調査を実施した。

結 果

1996 年の調査開始から 2002 年までの各地先における刺網の目合い別使用割合の全体的傾向は、1996 年から 1998 年の期間では、目合い 3 寸 5 分目未満の使用割合が各地先共に高い。

一部の地先では、より小さな 3 寸目以下の刺網も使用されていたが、1999 年以降からは、これらの小さな目合いの刺網の使用が減少し、3 寸 5 分目以上の使用割合が高くなってきた。

地区別には、泊や平館では、1996 年以降から 3 寸 5 分目以上の刺網が使用されており、特に、平館では 1999 年以降、3 寸 8 分目以上の刺網が使用されている。また、平内町から野辺地、横浜町にいたる陸奥湾の東部でも、近年は 3 寸 5 分目以上の使用割合が高くなってきた。

八戸市南浜地区では 1999 年以降、3 寸 5 分の刺網による操業に切り替わったものの、八戸地区では、近年でも年によっては 3 寸 3 分の刺網が使用されている。この、刺網を用いた操業は、主に太平洋南部海域で例年、9 月から 11 月にかけて沿岸域に小型ヒラメの好漁場が形成された時期に多くみられる。